

世界トップレベルの技術

「キラキラっと瞬く花火ありますよね。あの点滅花火の技術には、絶対の自信があります。」花火を製造する加藤煙火株式会社・取締役の加藤克典さんは話す。「基準や順位があるわけじゃないけれど…」と謙虚に補足する。加藤煙火の点滅花火は大規模なイベントでも使用される。過去には全

国の花火師が集う大曲の花火大会で優勝したことも。通常は3色程度が限界だが8色まで扱える、普通の花火に比べ8〜16倍明るい、観客の頭上で打ち上げても燃えカスが落ちてこないように安全基準もクリアしている、など、驚くような話題が続く。大正15年から続く老舗の高い技術力が一発一発の花火に込められている。



星の大きさもノギスを使ってチェックする

コロナで気づいた蒲郡の良さ

「打ち上げ場所を貸してもらった時、市民の皆さんが本当に快く承諾してくれました。」例年通り開催できない花火大会に代わって、昨年実施された市内15カ所での打ち上げ花火。通常とは違う場所を打ち上げのために使いたいとお願ひに行くと、誰もが協力的で地元から歓迎されていると実感できたという。

住民の理解は打ち上げの成功には必須条件となる。いつもの花火大会では60人程度で打ち上げを行うが、昨年は打ち上げ場所が増えた分、約100人まで膨らんだ。といっても加藤煙火の従業員は1割以下で、ほとんどは他に職を持つ言わば地域の花火師である。手筒花火に携わる人が多い地域性がこれを可



上下の玉皮を合わせる時には集中力を要する